福島市立清明小学校　　学校だより　令和３年７月１６日　第 １６ 号　　〈文責〉校長

みんなとともに笑顔いっぱい　ー「学びあい」「認めあい」「高めあい」ー

みんなとともに

学校観戦チケットの話はなくなりましたが、念のために説明をすると、本校は当初から国立競技場で行われる「パラリンピック陸上」を修学旅行と兼ねて観戦する計画でした。当選はしていましたが、この状況では東京へは行けませんので、早めにキャンセルをしていました。さて、１学期も残り２日となりました。１学期の「学校だより」は今号で終わりです。お付き合いいただき、ありがとうございます。

本校の子どもたちの「自己肯定感」を高めるために

昨年度の「学校だより 第４６号」の「『道徳教育』に力を入れている成果はでているか」の説明で、「自己肯定感が低いのが本校の継続した課題になっている」と書きました。この課題に今年度は生徒指導部を中心に次のように向き合っています。

【「自己肯定感」を高める取り組み】

◇「１日１ほめ」

特別によい行いだけではなく、できて当たり前のことをほめる。例えば、「廊下を歩いていてえらいね」「『おはようございます』の挨拶ができたね」など。いつもほめられない子どもを特にほめる。自分の学級だけではなく、他の学年の子どももほめる。最低１日１回は子どもをほめる。

◇「先生からの花さき山」

「花さき山タイム」で子どもたちが見えていない頑張りやあまり友達から発表されない子どもについて、担任が発表する。

◇「１日１伝え」

連絡帳や「まなびぃ」にその日に頑張っていたこと等を保護者の方に伝える。

家庭でも、お子さんのしている“当たり前のこと”を見つけたら、「ちゃんとやっているね」「がんばっているね」と“お子さんを認める声かけ”をしていただけると、同一歩調で進むことができると思います。

→【教務主任 早川先生の「１ほめ」「１伝え」】　　ある日の６年１組の様子

- ○ 配るものがあったときに、「ヒマだから配ります」と言って配っていた。
- ○ 給食中にこぼしたときに、周りの子がサッとティッシュでふき取っていた。
- ○ 理科の実験で、終わった子が手順を教えていた。
- ○ 授業で使うテレビを、係が授業の前に準備していた。
- ○ じゃがいもの水やりを係が毎朝しっかり行っている。
- ○ 委員会の仕事をしっかり行っている。
- ※ とにかく、自分の仕事、すべき事をしっかり行うことのできる、自慢の６年生である。

【校長のつぶやき】　その８５　「青天を衝け」

NHK 大河ドラマは、渋沢栄一を扱った「青天を衝け」である。このドラマが、実におもしろい。栄一は、藍農家に生まれ、縁あって一橋家に仕官し、一橋慶喜が将軍になったため幕臣になる。そして、慶喜の弟が万博へ行くのに付き添い、パリへと行く。今は、このあたりまで話は進んだ。これが実話であるから、人生とは不思議なものである。さて、パリへと出発する前に、栄一と慶喜が徳川家康の「ご遺訓」を唱える場面があった。「遺訓」とは、「子孫への教訓」である。

〈徳川家康「遺訓」の意味〉

人の一生というものは、重い荷を背負って遠い道を行くようなものだ。急いではいけない。
不自由が当たり前と考えれば、不満は生じない。心に欲が起きたときには、苦しかった時を思い出すことだ。
がまんすることが無事に長く安らかでいられる基礎で、「怒り」は敵と思いなさい。
勝つことばかり知って、負けを知らないことは危険である。自分の行動について反省し、人の責任を攻めてはいけない。
足りないほうが、やり過ぎてしまっているよりは優れている。

この遺訓は、４００年ほど前のものであろうが、現在にも通じるものがある。“家康派”の私は同感するのだが、皆様はどんな感想をお持ちだろうか。もし子どもに聞いたとしたら、「がまんするなんていやだ」「負けるなんていやだ」と、逃げられてしまいそうである。子どもには伝わらないだろうなあ、このよさは…。